

第1回 庁舎周辺まちづくりプラン(仮称)等検討委員会

<開催概要>

日時：令和7年4月21日（月） 13時開会

場所：熊本城ホール 3F 大会議室 A2

参加者：（委員）岸井委員、国古委員、菅野委員(Web 参加)、田中委員、星野委員、吉城委員、高田委員、
田原委員、野田委員、原山委員、富永委員、船津委員、上野委員、木櫛委員、黒木委員
（欠席）藤本委員

<資料>

- ・ 次第
- ・ 委員名簿
- ・ 配席図
- ・ 資料1_新庁舎整備に関する基本構想について
- ・ 資料2_新庁舎整備を契機としたまちづくりについて
- ・ 資料3_まちなか再生プロジェクト、居心地のいい歩いて楽しめるまちなか未来図
- ・ 資料4_中心市街地のまちづくりについて
- ・ 庁舎周辺まちづくりプラン（仮称）等検討委員会運営要綱
- ・ 庁舎周辺まちづくりプラン（仮称）等検討委員会傍聴要綱

<会議の経過>

1. 開会

2. 委嘱状交付・市長挨拶

3. 委員長選任

（田中委員）

様々な公的機関での都市計画に関する審議会等において、専門家として、数々の委員を務めておられ、熊本市の本庁舎等整備のあり方に関する有識者会議においても、副会長を務められた岸井委員を推薦する。

（全委員）

異議なし。

（岸井委員長）

副委員長は田中先生にお願いしたい。

（全委員）

異議なし。

4. 議事

（岸井委員長）

本日の委員会は、運営要綱第8条第1項に基づき、「公開」で行われている。冒頭事務局からもあったが、傍聴される方については、運営要綱を遵守の上、円滑な進行に関してご協力をお願いしたい。

それでは早速、お手元の資料を事務局の方から説明頂き、それから皆さんのご意見を頂きたい。

資料1 新庁舎整備に関する基本構想について

(事務局)

本基本構想では、まず新庁舎整備に関するこれまでの経緯をまとめている。熊本地震の翌年度に現庁舎の大規模改修を検討する中で、合わせて実施した耐震性能調査において、現行の建築基準法等が設ける耐震性能を有していないとの結果が出たため、庁舎整備の検討を始めた。

その後、有識者会議など、様々な議論を経て、令和5年6月に市長が本庁舎等は建替えの方針を進めることを表明し、本基本構想を令和6年8月に策定している。

次に、現庁舎の現状と課題であるが、耐震性能不足に加えて、地下に主要設備を配置していることによる浸水リスクへの脆弱性や、建物自体の老朽化、執務室や市民窓口などの狭隘化などがある。

次に、新庁舎の目指すべき姿を3つの視点で定めている。

1点目、あらゆる災害に対応できる庁舎として、十分な耐震性を確保し、浸水リスクにしっかり対応するとともに、防災拠点として機能拡充を図る。

2点目、市民が利用しやすく、質の高い行政サービスが提供できる庁舎として、来庁者への配慮や利便性、窓口機能など、市民サービスの向上に加え、効率的な業務遂行が可能であり可変性を持ち、環境負荷の低減を図る。

3点目、まちのにぎわいに貢献し、まちづくりの核となる庁舎として、市民交流や情報発信の場となることはもとより、まちづくりの核として、周辺地域も一体となった賑わい創出を目指しつつ、現庁舎敷地については、そのポテンシャルを活かすような利活用について検討を行う。

目指すべき姿を踏まえ、新庁舎の必要面積を算出した。新庁舎の床面積については、今後、計画・設計をする中で精査していくが、本基本構想の段階においては、概算で6万平米、駐車場も含めると、7万300平米としている。

また、建設地については、立地特性や建替計画、概算事業費等を比較検討した結果、本庁舎及び議会棟は「NTT桜町跡地」、中央区役所は「花畑町別館跡地」を選定した。

新庁舎整備の概算事業費は、設計や建設費、土地取得費などを含め、616億円と算定している。

最後に、今後の進め方だが、今年度から3年から4年をかけて、基本計画や基本設計、実施設計を行い、その後、4年程かけて、建設を行う予定である。また、現庁舎跡地については、新庁舎へ機能移転が完了した後に、2年ほどかけて解体工事を行う。

資料2 新庁舎整備を契機としたまちづくりについて

(事務局)

新庁舎の整備を契機としたまちづくりについては、本庁舎等整備のあり方に関する有識者会議から、「単体施設の議論に終始することなく、周辺地域とも一体となった、将来のビジョンを描き、その実現に向けて、大きな視点で戦略的に推進すべきである」との答申をいただいております。市民や議会からも、様々なお声を頂く他、先日4月2日に開催された都市戦略会議においても、この機会を逃さぬよう連携、協力しながら取り組みを進め、熊本市の国内外における存在感を高め、持続的な発展を目指すことなどが話し合われた。

本市では、今後、新庁舎整備を契機とし、現状の課題を解決するとともに、都市の発展に繋がるまちづくりを実現していくため、本委員会でのご意見を頂きながら、まちづくりの方向性や考え方についての検討を進め、

「庁舎周辺まちづくりプラン」として取りまとめて参りたいと考えている。

今後のスケジュールについて、まちづくりプランは、今年度から2ヵ年かけて策定を行いたいと考えている。下段の緑矢印で、新庁舎整備に関する基本的なステップをお示ししているが、新庁舎整備の基本計画においても、まちづくりプランと整合を図りながら検討を進めて参る。まちづくりプラン策定後は、このプランに基づき、各施策を展開していく。

横浜市は、都市の発展を牽引する地区のまちづくりを戦略的に推進しておられ、エリア回遊性の向上に努めておられる。ここでは、横浜の跡地利活用の事例を紹介しているが、本市においても、都市の発展と整合の取れたまちづくりの実現に向け、丁寧に検討を進めて参りたいと考えている。

資料3 まちなか再生プロジェクト、居心地のいい歩いて楽しめるまちなか未来図

(事務局)

まちなか再生プロジェクトについてご説明する。

まちなか再生プロジェクトは、老朽化した建築物の建て替え等により、記載している3つの「都市空間を創造」を官民一体となって推進することで、災害に強く魅力と活力のある中心市街地を目指すもので、令和2年4月から令和11年度末までの10年間を限定で進めている事業である。

本プロジェクトは容積率の割増、高さ基準の特例承認、財政支援、建替え促進の3つの実施施策としている。それぞれの対象範囲は記載の通りである。

3つの実施施策の概要である。

まず、容積率割増は、指定容積率600%を最大1000%まで引き上げる制度である。高さ基準の特例承認は、対象制度を活用し、景観審議会に意見を聞き、良好な景観形成に支障がないと認めた範囲内において、景観計画で定めた高さ基準を超えることができる制度である。財政支援制度は、表に記載している補助内容を支援するものである。

最後に、これまでの進捗状況であるが、令和5年度末までで27件の実績となっている。

(事務局)

本年3月に策定した、居心地のいい歩いて楽しめるまちなか未来図（熊本市中心市街地ウォーカブルビジョン）についてご説明する。

本ビジョンは、他分野にまたがる様々な取り組みを面的に広げ、官民連携してウォーカブルなまちづくりを進めるため、中長期的な視点で、目指すまちの姿と方向性を示したものである。

対応の方向性を「つくる」「つかう」「つなぐ」、取り組み方針として「人中心の都市空間の整備」「都市空間の利活用促進」「多様な移動手段の提供」を掲げている。

対象区域は、熊本市中心市街地活性化基本計画における中心市街地の区域、約415ヘクタールであり、居心地のいい歩行空間や滞在空間の形成を図る3つの回遊ルートと重点エリアを設定し、アーケード街や花畑広場を軸に、人中心の空間を広げていけるよう、地域の方々とともに検討を進めていく。

目指すウォーカブルなまちの姿を「多様な人々が開かれた空間で居心地よく快適に過ごせるまち」としている。ウォーカブルなまちの実現に向け、移動手段の技術革新や熊本西環状道路の整備などによって、少しずつ車の量が減ったり、建替えによって空地が生まれたりした空間を、居心地よく快適に過ごせる空間に転換するなど、官民連携して検討を進めることとしている。

資料4 中心市街地のまちづくりについて

(事務局)

ここでは、本市がこれまで行ってきた中心市街地のまちづくりについてご説明する。

中心市街地活性化基本計画に基づく、本市の中心市街地は、区域、総面積が約415ヘクタールであり、大きくは4つのエリアに区分される。

まず、熊本のシンボルである熊本城を有する熊本城地区、本市の陸の玄関口である熊本駅周辺地区、その両地区を結ぶ城下町の街並みや風情を残す新町・古町地区、そして商業・業務施設等が集積する通町筋・桜町周辺地区である。

このうち、現庁舎や新庁舎が位置する通町筋・桜町周辺地区は、通町筋地区と桜町・花畑周辺地区の2つの商業核と、これを繋ぐ3つのアーケードでその骨格が形成されている。

通町筋地区は、平成14年には民間施工による2つの再開発事業において建設されたビルが開業し、百貨店の増床、美術館の導入など拠点性の強化が図られてきた。

一方で、もう1つの核である桜町は、本市のシンボルである熊本城の中心商店街をつなぐ重要な地区だが、バスターミナルや商業施設の老朽化により、拠点性の低下が課題となっていた。

このようなことから、平成24年、桜町再開発予定区域を含む一帯について、「桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント基本構想」を策定し、このエリアを中心市街地の4つのエリアの「かすがい」として、さらには中心市街地の回遊の要として、まちづくりを進めることとした。

そして、桜町地区では、令和元年にはバスターミナルをはじめ、商業施設、ホテル、住宅のほか、熊本城ホールからなる再開発ビルが竣工したほか、令和3年には花畑広場、辛島公園、花畑公園に加え、車から人が中心のまちへと転換する先駆けとして、幅員27メートルの道路を延長220メートルに渡って廃道して生まれた、「通称シンボルプロムナード」を、多種多様な利活用が可能となる広大なオープンスペースとして整備した。

このように、本市の中心市街地は、熊本城を生かしながら、戦略的にまちづくりを進めてきたところであり、平成28年に熊本地震が発災した際にも、これまでのまちづくりの歩みを止めることなく、本市の防災力の向上、復興のけん引役という新たな位置付けを担いながら、さらなる地域経済の活性化、にぎわいの創出を図ってきた。

～以下議論～

(岸井委員長)

今日は初回でもあるため、本検討委員会ではこういったエリアを対象として、こういった位置付けのプランを考えていくのか、こういったことを大事にして議論を進めた方がいいのかなどについて各委員から自由なご意見をいただきたい。

まず、委員間での共通の理解のためにも説明資料について質問があればお願いします。

(星野委員)

まちなか再生プロジェクトについては、2020年から10年間の計画であり、庁舎が完成していないタイミングで計画期間が経過してしまう。他の施策もそうであるが、タイミングを合わせて延長していくようなことも重要だと思うが、そのような検討は可能なのか。

(事務局)

現在の計画では令和2年度から令和11年度末までとなっているが、本検討委員会では庁舎整備を契機として、新たな施策等についても検討の対象になると考えており、検討結果を踏まえ、まちなか再生プロジェクト

についても柔軟に対応したい。

(野田委員)

第8次総合計画などの全体計画との位置付けはどうなっているのか。

(事務局)

第8次総合計画は、市の中でもっとも重要な計画であるため、方向性を同じくして取り組んでいきたい。また、中心市街地においては、中心市街地活性化基本計画や桜町・花畑周辺地区のまちづくりなど、計画を作りながら進めてきたところであり、それらとも整合を図ったプランにしたい。

(岸井委員長)

新庁舎整備や現庁舎跡地の利活用は、市の政策として位置付けをしていくことが重要となるため、既存の計画の更新や今後の計画策定のタイミングを少し整理し、どの計画に反映していく方が好ましいのか、もしくはこのままでもいいのかなどを考えた方がよい。

(岸井委員長)

横浜のまちづくりに長らく携わってこられた国吉委員からご意見をいただきたい。

(国吉委員)

横浜では、全てが“みなとみらい”になってしまうとつまらないまちになってしまうため、新しいまちとこれまでのまちが隣合わせて補完しあう方が、まちとして価値を高められるのではないかと、また全体として回遊性が高まるのではないかと考えた。横浜の場合、新庁舎をみなとみらいにつくると、既存市街地のポテンシャルが落ちるのではないかとという危惧もあったため、旧市庁舎の街区をどうするかということも併せて新庁舎の位置選定を検討することとなった。既存市街地では、これを機に逆に回遊性を高めようという話になった。

(岸井委員長)

資料に本検討委員会の運営要綱がつけてあるが、お集まりいただいている皆様と当面一緒に考えていかなければならない具体的なテーマが書いてある。第2条に「現庁舎跡地の利活用、新庁舎と周辺の連携その他の(仮称)庁舎周辺まちづくりプランの策定及び新庁舎の整備に関し、必要な事項を審議する」となっている。是非、幅広い分野において、委員の皆様には様々なご意見をいただきたい。

(岸井委員長)

先ほど、まちづくりプランをつくりにあたっては、他の計画とどのように整合を図るのかといったご意見があったが、資料4には、現在、中心市街地で動いている中心市街地活性化基本計画のエリアが示されており、かなり広いエリアとなっている。市としては、今回の対象エリアとしてはどのような考えを持っているのか。委員の皆様からもどのようエリアを重点的にやっていくべきかといったご意見をお伺いしたい。

(田中委員)

これまでの中心市街地での取組を踏まえ、その連続、流れで考えると、資料4の1ページ目に記載されている中心市街地415haを視野に入れながら、具体的には2ページ目の通町筋・桜町周辺地区について考えていく方がいいのではないかと。

(岸井委員長)

単に新庁舎建設予定地や現庁舎跡地がここだから、この部分だけ考えればよいという「点」の話だけではなく、少なくとも通町筋・桜町周辺地区ぐらいまでは下地において考えた方がよいというご意見であった。その上で、本検討委員会では、新庁舎や現庁舎跡地をどうするのかについて議論する必要がある、また、賑わい波及や回遊性向上をどうやっていくのか考えていかなければならないので、我々としても少なくともこのくらいのエリアを頭において議論していくということによろしいか。

(各委員)

異議なし。

(岸井委員長)

今回のような新庁舎整備というアクションをいかに活かして地域の価値を高めていくかが、我々が議論すべきことだと思う。

(田中委員)

今、エリアの話があったが同時に時間の話も考えないといけない。関連計画の時間軸が違っている中で、市民からは 50 年、100 年といった声があり、都市計画マスタープランでは 20 年といったスパンがある。今回のプランは何年先を見据えた姿を描いていくのかという共通認識をもった方がいい。

(事務局)

新庁舎の建設では、基本計画・基本設計・実施設計に 3～4 年、建設に 3～4 年、現庁舎の解体に 2 年程度と考えているため、現庁舎跡地が見えてくるのが、おおよそ 10 年後と考えている。

(岸井委員長)

少なくともそのくらいまでは見据えることと、そのあとのまちづくりへの繋ぎをどう考えていくかも重要。

(国吉委員)

横浜市も決してスピード感のあるまちづくりをやってきたわけではなく、構想を立ててから 50 年ほどかかった。みなとみらい地区では、当初、仮設的、実験的な利用を認めてきたこともあって、イノベーションなオフィスや企業のミュージアムなど 50 年前の構想では予想していなかった土地利用や動きが生まれ、これに柔軟に対応できた。このように時代のニーズを受け入れながら、取り入れていくという時間軸の考え方も大事。今回の場合も、新庁舎が移転して、また新しいニーズが生まれるかもしれない。そのようなことも上手く取り入れながら対応していくことが大事。そのようなことを踏まえながら、10 年スパン、もしくは 30 年スパンのものをつくっていく。

他の地域、例えば、資料 4 の 1 ページでいうと、熊本城地区はどうなっているのか、新町・古町地区はどうかかわっていくのかなどを読み取って、少し大きなシナリオをつくっていけたら、熊本の中心市街地全体がお互いにいい影響を及ぼし合って変わっていけると思う。少し周辺地域の状況も確認しながら考えていく必要がある。

(岸井委員長)

熊本では新しい半導体の工場も立地し、交通渋滞の問題もある。そのような中で、当面の交通対策と今回のプロジェクトの関係ややり取りについても少し考えないといけないが、熊本市においては、現在の交通関係を協議する場としてはどのようなものがあるか紹介いただきたい。

(上野委員)

交通関係については、市長と知事による県市トップ会談の実施や、県市の調整会議において渋滞を中心とした熊本市の交通に関して協議検討を進めている。また、市議会において熊本市における地域公共交通の再構築の立場から地域公共交通に関する特別委員会が設置され、昨年度から審議いただいている。

(高田委員)

県市で進めている都市交通マスタープランの検討にあたっては、エリアごとの問題点を洗い出しての検討のようなことはしているのか。

(上野委員)

高田委員も委員になられている公共交通活性化協議会等の場を通じて、様々な熊本市都市圏全体の交通施策や、社会的課題への対応についても議論している。

(高田委員)

都市交通マスタープランの策定に向けて県市で取り組んでいるが、その中ではエリア単位での議論まではあっていないという認識がどうか。

(富永委員)

現在は、全体のことがメインで、エリアごとには、もう少し詳細に議論する必要があると考えている。

(高田委員)

2020 年から路線バスの共同経営をやっている。現在、路線バスが、桜町から通町筋までの区間でどのくらいの所要時間を見込んでいるかという、だいたい 6～10 分くらいで抜けるというイメージで時刻表をつくっている。平日はその時刻通りにいくことはあまり無く、2～3 分、長い時には 5～6 分伸びてしまう。せっかくバス専用レーンがあるが、当面の課題としては、バス専用レーンがしっかり機能するような対応が必要。また、ウォカブルという考え方もあるが、西環状など周辺道路が完成し、まちなかの通過交通が減り、ビルの建替えによりオープンスペースが増えた後に、気持ちの良い空間をつくっていこうという戦略だと思うが、できればその進める速度を速めていくことができないかといったこと等をまちづくりの観点から話せるものかどうか最初に確認したい。

(岸井委員長)

今のご意見はこの場で議論できるのか、もしくは既にある協議会等で議論した方がよいのかとったご意見だと思う。今回、新しいものを建てたりするとそれなりの交通への影響が出ると思うが、一方で、交通分野については既に別の協議体が動いている。全体像の方は、パーソントリップ等の協議体の方で動いているようなので、我々としては別の協議体からボールを投げていただいて、その内容を背景としてよく理解しながら、新庁舎整備に伴ってどういったことをやる方がいいのかということを経験しつつ、その結果をまた交通の協議会にお返しし、定量的な検討をしていただきながら、最終的には都市交通マスタープラン等とも整合を図っていくというやり方がいいと思う。

(上野委員)

本委員会での議論を通じて整理される新しいまちのビジョンも踏まえながら、その新しいまちにふさわしい公共交通については、公共交通活性化協議会等の中で都市圏の交通政策をとりまく社会課題への対応も盛り込みながら議論を進め、またご報告させていただきたい。

(原山委員)

4/2 に県、市、熊本大学、熊本経済同友会、熊本商工会議所のトップによる都市戦略会議が開かれ、庁舎整備を契機としたまちづくりと合わせて、中心市街地グランドデザイン 2050 に関する議論も行われた。その中で、現在、人口減少や半導体産業の進出などの環境の変化や、先ほど議論があった交通政策なども踏まえ、まちの最適な姿を想定しながら、重点取組を定めて進めていこうと合意がなされた。庁舎周辺まちづくりについても、様々な計画と密接に関わるため、そのあたりを整理しながら進めていく必要があると思う。

(岸井委員長)

まさにここで議論することを実際に実現していくためには、市の政策の中で位置づけていくことや、現場で色々と動いている経済界とも連携を取らせていただく必要がある。せっかく市庁舎を新しくする議論や、跡地をどのように使おうかという議論ができるので、これまで、様々な機関でご議論されてきたアイデアについても是非聞かせていただきながら進めたい。

(野田委員)

経済同友会でもまちづくり委員会というものがあり、若い人たちにも住民の人にも愛される、世界にも選ばれる熊本というテーマで考える糸口をいくつか共通認識として持って、それについて色々と議論をしている。

若者をどう引き込むのが持続可能なものに繋がると考えれば、若者の魅力がどういうところにあるのか、そういうお話を皆さんにお聞きしたいと思う。

(岸井委員長)

皆さんから愛されるまちになっていかなければならないし、外の人に対してもアピールしていかなければならない。新しい動きに対して、このまちは何をチャンスとして与えられるのか、そういったことも踏まえながら、まちづくりプランを考えていくことも大事。

(田中委員)

色んな計画やプランが動いている中で感じていることは、景観は景観でやっていて、例えば、まちなか再生プロジェクトではインセンティブを与えますということで、パブリックスペース、オープンスペースができるが、戦略的な配置だとか、あるいはウォークアブルの中でそこがどう機能するのかというような作り方があまりなされていない。

まちなか再生プロジェクトのパブリックスペースの在り方とウォークアブルの取組などをしっかり関連させ、公共交通で自動運転のようなこともそれに関連させて、今回のまちづくりプランというものが、それを束ねたうえで、ウォークアブル、オープンスペースなどの大きな基軸とならなければいけないと思う。だから、既存の計画を機能させるエンジンとなるようなコンセプトとビジョンであるべきだと思う。

(菅野委員)

防災を専門にしており、どうしても議論が後回し、後付けになってしまうが、まちなか再生プロジェクトの方で検討頂いた容積率緩和はかなり積極的に防災に向かっている例かと思う。守りのコストのことだけでなく、これをするプラスになるというような。最近、もしもに備えておけば、いつもいいよね、のようなフェーズフリーという言葉もある。こういった考え方が新庁舎を周辺まちづくりと一体になって作っていく上で、すごく重要なことだと思う。庁舎自体も、それを体現するような、そういう世界でやってほしいと考えるので、是非、色んなところで横串を刺すように、熊本のまちにとってメリットになるような、備えることだけでない発想で作りこんでいけるといいのではないかな。

(岸井委員長)

現在、この地域の防災に関する計画等はどれくらいのものがあるのか。

(黒木委員)

熊本市の場合は、熊本地震の経験を踏まえて、地域防災計画で熊本市全域を対象とした計画を持っている。

例えば、避難所運営については、各エリアで自治会の皆様と関わっていただいております、そのエリアごとの避難所の運営委員会であるとか、防災連絡会を小学校区ごとで運用していただいている。地区における計画というのは別途、その地域で議論いただいているというような現状かと思っています。

(事務局)

この桜町・花畑周辺エリアについては、帰宅困難者の対策会議が行われており協議会が設立されている。

その中で、昨年度は実動訓練を行い、実際に地震が起きた時にどういった対応をするべきかということ熊本市城ホール指定管理者やサクラマチクマモトを中心とした周辺企業とともに、マニュアル作成、改善に取り組んでいる。

(岸井委員長)

そういう中で市庁舎の役割は議論されているのか。市庁舎としては、防災上の役割としてもこれを強化していかうなど強いメッセージはあるか。

(黒木委員)

これも熊本地震の経験を踏まえてになるが、本庁舎というのは基本的には防災拠点として、司令塔としての

役割が一番求められるだろうと思っている。

現在の市役所においては、地震の後に避難者の方が殺到されたような状況もあり、運営上支障をきたしたという反省点も踏まえて、本庁舎のあるべき姿というものも有識者会議の中でご議論いただいて構想の中に盛り込んでいるという認識である。

(岸井委員長)

これからの新しい庁舎の議論、設計そのものに関わるため、どのくらいのことを考えるのか、或いは地域全体で役割分担するのか、議論がおそらく必要となる。

(吉城委員)

防災の司令塔という議論があったかと思うが、例えばまちづくりの観点においては、市庁舎が要になる、「かすがい」という言葉が先程あったように、まちづくりの司令塔であるということに加えて、プレーヤーとしての役割も担っていく必要があると感じたところ。これからのコンセプトということを見ると、これから市役所の場所が変わったことによって求められる役割というのもしっかり考えていかなければならないと感じている。

先ほどからエリア、コンセプト等の議論があるが、新庁舎の周辺のまちづくりということを考えた時に、横浜の事例をご紹介いただいたが、おそらく庁舎を建て替えるときはどこもすごく悩んで考えられているのではないか。そういう意味で、先ほど世界における熊本というお話もあったが、横浜以外にこのような市庁舎周辺のまちづくりを考えていく計画はどういう所があり、エリアの範囲やコンセプト等どのようなものが打ち立てられ、それが果たしてその設計で十分だったのかというような研究があれば、なお参考になるかと感じている。

(岸井委員長)

もし共有できる情報があれば頂きたい。

(国吉委員)

私は鎌倉市の新市庁舎整備検討の委員長もやっている。現庁舎は津波に非常に弱く、すぐ文化財が出てくるため現地で建て替えることは非常に難しいだろうということで、少し北側の比較的標高が高い所に移転する方向で進めており、基本設計まで終わっている。

新庁舎と市庁舎跡地の新施設は距離があるため、両施設をどんな交通で繋ぐということも含めて議論している。防災の問題から発端した市庁舎の移転、庁舎機能を鎌倉市内のいくつかの拠点とどのように連携を取るのか、新しい庁舎の市民活用などについて、熊本市も同じかと思う。

(田中委員)

都市規模は小さいが、富山市では県庁を中心にコンパクトシティーが先行しており、課題も多い中、どういうまちの在り方が良いかということを、市民だけでなく全国にアイデア募集している。色んな考え方を出示してもらい評価をした。頂いたご意見を議論のたたきとして、まちづくりプランを作った。いろんな意見をもらってやりとりするプロセスは参考になるかと思う。

(富永委員)

色々な話を聞いて思ったことが、庁舎周辺のまちを利用する人はどういう人かという利用者目線で議論することも大事と思っている。ウォーカブルなまちを作っていくことが誰にとってウォーカブルなのかというのが大事と思う。

中心市街地周辺に来られるのは中心市街地周辺に住んでいる方だけではなく、熊本市内の遠い地域の方も、熊本県内の他の市町村に住んでいる方も、日本全国から観光やビジネスで来られる方もいる。そして今は、外国からインバウンド、観光、ビジネスで来られる方も多い。色んな人たちが集まるまちにするにあたって、ウォーカブルや自転車、シェアサイクルの利用促進、公共交通も大事。ウォーカブル、シェアサイクル、公共交

通の利用促進、このようなものが大事なのは、誰のためなのかということを基軸に整理していくと良いと思った。

熊本の観光で一番インバウンドの方が集まるのは熊本城であり、熊本城地区と通町筋・桜町地区、ここのアクセスを見据えながら、熊本城で観光した後に飲食をする場所、あるいはビジネスをする場所なども考える必要があると思う。

公共交通の観点では、今回市役所の場所が選定された大きな理由として、桜町バスターミナルと連携していくことも極めて大事だと思うため、連絡通路やその周辺のバス停、あるいは市電の電停をどのように配置するのか、そういった公共交通を基軸にやっていくことの具体的なコンセプトをより明確にしていけることができれば良いと思った。

(星野委員)

まずは、いろんな他の事例を我々も研究していった方がいいのかなと感じた。熊本の場合は、拠点と線がすごくしっかりしていると思っているが、実際、僕らがまちを歩く時は、点と線だけでなく面的なまちの楽しみ方をしており、それをしっかりプランにしていく必要がある。

特に今回は、少なくとも3つの点をセットで考えなければならないので、点から線、線から点ということから、面的な部分まで皆さんと議論できたかと思っているが、面的な使い方は、例えば若い人や海外の方ではなく、僕ら世代しかしていないなとも思う。視点を変えたり、対象者は誰かということもリンクさせていくと、すごく良い提案が生まれるのではないかな。

(岸井委員長)

長岡市では意図的に街中に分散させるような戦略を取っていた。最近の例であれば、豊島区役所では色んな議論はあったが、民間の用地の中に新しい庁舎を入れた。跡地をどう使うかについては、条件は必要だが、公的機関だけが対象でなく、いろんな角度から提案をして頂いて、選ぶような動きもあると良いのでは。

さいたま市のように、大宮と浦和という大きなまちの中間にあるような、同じような事例も研究してもよいと思ったところ。

最初に市役所の設計ができ、移ることについて地主との合意が取れて、どのような土地が生まれるのか、そこがはっきりしないと先が見えないという意味では、市役所の話、跡地の話、まち全体の話の流れがあるかと思う。まち全体の話は、ウォークアブルや防災、公共交通など、面で考えなければならない話であるが、時間軸で考えると、最初に市役所についての議論を進める必要があり、それが進むことによって他のプロジェクトも進むかと思う。跡地をどうするかについては、市だけで決めるのではなく、様々な方の意見を聞くことが必要と思われる、まち全体ともなれば、もっといろいろな関係者のご意見を聞きながら進める必要があるように、フェーズが変わっていくと思う。

それらを全部整理した際に、これまでの様々な既存プランとどのように連携するのか、ある程度は検討委員会からの条件を伝えたいと考えて頂くという場面もあると思われるほか、検討委員会で考えたことを、既存計画を変えていくためのエンジンとしていくこともあるかもしれない。

市役所でできる話は限られており、まちを良くするためにはいろんな人が同じ方向を向かなければならないと感じている。ルールがあるとすれば、まちなか再生プロジェクトや、それに代わる少し緩いガイドラインなど様々なものがありそうな気がする。以前、他の地区においては、1個新しいものが作られると地域が良くなるのではないかなという発想があったが、最近は地域の価値を上げていかないと勝てないという発想になってきている。地域の価値を上げるためには多少ルールがあった方が良いとか、皆が同じ方向を向くためには参加する余地があった方が良いとか、そんなルールを考えていくなど、エリアで地域を運用していく発想が強くなっている。

さらに最近新しい半導体産業が来ているような状況。台湾の高雄は工業、準工業のまちであり、最も住みたくないまちと言われていたようだが、TSMCが進出し、それと同時に産業構造が大きく変わり、さらに水も空気も綺麗であることから、大きくイメージアップした。新しく来たものを地域で受け止めて、どのように使っていくのか、新しいチャンスではないかと思う。

そのようなことを考えると、我々が議論していることにはいくつか段階があるような気がしている。本日は初回であるため、これからの進め方に関して、ご提案差し上げようかと思うが、運営要綱の中で検討委員会のミッションは、現庁舎跡地の利活用や新庁舎周辺のまちづくり、新庁舎の整備そのもの等が書いてあることから、これらについて少し温めて頂く仕組みを持った方が良く思う。

例えば、新庁舎の設計を詰めていくような議論は、スピーディーに行う必要があり、そこが決まらなければ跡地の話は出てこず、跡地の話が無いと新しい変化のチャンスも出てこないという意味においては、新庁舎の部分は先行して進めなければならない。

跡地の利用については、参画するプレーヤーが色々いらっちゃって、市が全部やるわけではないため、幅広く意見を聞きながら跡地利用のプロセスやビジョンを考えたい一方で、まちの関係者と協議して展開していくことや、回遊性などの様々なまちの課題に対してどのようにしていくかの議論など、なんとなく3つあるような気がしている。

そのような意味では、運営要綱の第9条に、委員会は専門分科会を置くことができると書いてあるため、専門分科会なるものを設置させて頂けないかと思っている。

一つは、新庁舎の設計を考えていくことであり、そこで考えることは周りとの関係も考えざるを得ないため、ここだけで終わることはないが、この話が動かないと先がなかなか見えてこないかと思う。

二つ目は、跡地利用に関することについてであり、これは少し情報を集めて頂き、可能性などを整理したうえで、跡地利用のプロセスについて議論して頂く分科会と思っている。

三つめは、それをまちへどのように展開していくのかについてであり、賑わいや活性化の要素をまちへ波及させるような役割を持っているかと思う。そのためにはまちの人と話をする必要があり、少し広い面として、ウォークブルや防災、まちなみ再生などがあるかと思っている。

これらのような分科会を設置し、それぞれで突っ込んだ議論をして頂いたうえで、また検討委員会に持ってきて頂き全体で議論するという形を提案させて頂きたいが、いかがか。

(全委員)

異議なし。

(岸井委員長)

また都合が悪くなれば、変えることはできるため、一旦は分科会において深掘りした議論をして頂くこととしたい。要綱第9条では、委員長が指名する委員及び臨時委員で組織するとあり、分科会長は委員長が指名するとあるため、僭越ながら指名させて頂きたい。

田中先生は、建築に精通されているため、市庁舎のことについてお願いしたい。星野先生は、地元でまちづくりに関わっている跡地利用についてお願いしたい。国吉先生は、横浜のまちづくりのことをよくご存じであり、他の都市のアイデアを出して頂きたいということもあり、まちづくり全体についてお願いしたい。

(田中委員、星野委員、国吉委員)

了承。

(岸井委員長)

各分科会どのようなメンバー、スケジュールで進めていくのか、他の皆さんとのやり取りをどのようなタイミングで行うのか等について考えて議論頂きたい。何か現時点でご意見あれば頂きたい。

(田中委員)

まず景観、そして防災、交通、この3分野が特に重要と思うため、この3分野の専門家の方に加わっていただきたい。景観ということで星野委員、防災ということで菅野委員、交通ということで吉城委員にお願いしたい。加えて、庁舎は建築であるため、構造や環境設備の分野、そして福祉の分野、さらに地元住民の方も重要だと考えている。そのため分科会には、構造、環境設備、福祉分野、地元住民、公募市民の方にも参加いただきたい。具体的な人選については今後事務局と調整させていただく。

(星野委員)

現庁舎跡地や周辺の開発ということで、可能性がすごく広い分科会になると思うので、研究をしながら進めていきたい。その点でも、先ほどもお話があった横浜や鎌倉などでご経験がある国吉委員には参加いただきたい。また、おそらく広場で何も建てないということは無いと思うので、建築の藤本委員には参加いただきたい。さらに、敷地の中に閉じない議論をしていくことが大事だと思うため、都市計画的な視点を持たれた専門家にも入っていただきながら、スモールスタート的な形で始めさせていただきたい。

(国吉委員)

賑わい波及にあたっては、熊本の良さを活かしながら検討を進めることが重要。そういった意味では、これまで熊本のまちづくりに長らく携わっている田中委員、そして、交通分野の専門家である吉城委員にご参加いただきたい。また、賑わいというのは形だけではなく、ソフト面でどのようにしてまちを運営していくかも大事であるため、その点について全国で活動しているような人についても事務局と相談して参加いただきたいと考えている。

(岸井委員長)

現庁舎跡地の分科会もそうですし、まちなか再生・賑わい波及分科会についても、地域の皆さんとよく話をしていく必要もある。また、そもそもプレーヤーが必要であり、そのためにも皆さんと初期の段階から同じ方向性を共有するようなプロセスを経ていく必要がある。

(国吉委員)

先ほど、原山委員からご紹介があったように、熊本商工会議所や経済同友会などでも色々と議論されているようなので、なかなか、分科会メンバーとして全部入っていただくということは難しいが、必要に応じて、各機関で検討されている内容を分科会の場でもご披露いただければと考えている。

まちなか再生プロジェクトの説明の際に、公共貢献をしたら容積率などボーナスを与えるようになっているが、ほんとにその内容が地域の活力につながるのか慎重に考えていく必要がある。大きなプロジェクトというよりも、小さなまちの個性をつくるものがそれぞれのプロジェクトに引き込まれていくことで、面的な広がりができるのではないかと思う。そういう意味では先ほどご紹介のあった熊本商工会議所で出てきた意見等も踏まえながら検討していきたいと思う。

(船津委員)

将来的なまちを見越してプランをつくっていくということであれば、若い方の目線や意見も取り入れた方がよい。

(原山委員)

熊本商工会議所では、賑わいづくり委員会というものがあり、様々な意見を集約している。先般の都市戦略会議で情報提供させていただいたが、本検討委員会でも機会があれば共有させていただく。

(岸井委員長)

今日は、これからの進め方について、3つの専門分科会の設置についてご了解いただいたが、詳細なメンバーについては、あらためて共有したいと思う。今回のメンバー以外の方も様々なアイデアをお持ちだろうと思う

反面、特に現庁舎跡地の利活用に関していうと最後にはプロポーザル的な提案を求めるような機会がある。となると各事業者などが考えていることを早々と皆の前で言いたくないといったことも考えられるため、分科会によっては、公開・非公開の取扱いが悩ましいところだと思う。それぞれのプロジェクトのアイデアをもらう際に、公開の場では言いたくないという考えもよくわかるので、公開・非公開について考える必要があるが、市の方で基本的なルールがあれば共有いただきたい。

(事務局)

本検討委員会については、原則公開が想定されるが、委員長ご指摘のような事項、公にすることで民間事業者の正当な利益を侵害するおそれがある情報や、検討段階の未確定情報を公表することによる混乱等が想定される情報などについては、情報公開条例に規定する不開示情報が含まれると考えられるため、会議については非公開とすることも想定される。

(岸井委員長)

行政もそういう取り扱いをされていると思うので、民間企業のことや、検討中のものに関して共有することは差し控えたほうが良いと思うので非公開としたい。同時にどの部会も意見を聞く必要があると思うため、非公開とはいえどもいろんな方から意見は伺っていただきたい。

(田原委員)

まちの真ん中で商売をしており、あまり大きい話は分からないが、商店街同士で話をする中で一番大きいのは、跡地が何になるかということ。そこが一番気になるところ。

その中で要望、希望としては、やはり長期滞在してもらい、お金をなるべくまちなかに落として頂くこと。そういった面では、あくまでも例ではあるが、やはり高級ホテルという声が多いようである。

(岸井委員長)

部会のメンバーにおかれては、参考にしていただければと思う。

(高田委員)

熊本都市圏の渋滞が政令市の中で最も酷いと言われている中、交差点の改良等で県市努力され、道路改良もされているが、面的に考えると、この地域が最も渋滞が酷く、バス自体もほとんど桜町に来るということでバス自体も渋滞の加害者でもある自覚をしている。ソフトハードともに、少しでも車がスムーズに改善するような方法を合わせて考えていただきたい。

(岸井委員長)

交通に関しては、こういう新しい動きも一つの要因になるかと思うので、それを機に何か整備ということもあるかと思う。

例えば東京駅前の地下駐車場では、周りの駐車場と連携して繋いだことにより、出入口を塞いでウォークアブルな空間を作った事例がある。面的に新たな可能性を生み出した例かと思う。

(原山委員)

防災、交通、観光と様々な面があるが、庁舎移転は千載一遇のチャンスであり、我々経済界としては、いかに地域経済に資する措置ができるかということが一番のポイントと思っているため、そのような観点をしっかり大事にして考えていくとともに、皆さんにもご配慮いただければと思っている。

(岸井委員長)

桜町は再開発でだいぶ雰囲気が変わっており、今回を機に今後もさらに変わっていくと思われるため、そういう意味では様々連携していくことが大事かと思う。

(菅野委員)

防災は経済的にどうしても負担になるとの感覚が強いが、最近はそうでもなくなってきている。熊本の都市

としてプラスになるフェーズフリーな防災を謳えるということは、経済的にも実はプラスの部分がたくさんある。そういう観点で議論して頂けると嬉しい。

(岸井委員長)

最後に、市の方から決意表明のようなものをお願いしたい。

(木櫛委員)

本日の議論を様々伺いながら、新庁舎の整備を進めていくことを改めて決意したところ。これまでの議論からさらに建設的に、ポジティブに、とのご発言もあったように、しっかり本検討委員会で検討していければと思ったところ。

時間軸の話があったところだが、庁舎整備の基本計画を今年度中にとりまとめる想定をしており、それを踏まえた上で、まちづくりの起爆剤にするということであるため、その基本的な考え方をプランとして2年がかりでまとめていきたい。私ども事務局としても精一杯対応して参りたいと考えているので、どうぞよろしくお願いする。

(岸井委員長)

おそらく熊本にとっては、とても大事な、そう何回もないプロジェクトだと思う。時間軸でいうと、単に10年ではなく、20年、30年、50年の体系のような、これからの熊本を次の世代にどのように渡していくのか、そういう大きなプロジェクトかと思う。多くの方に愛して頂ける熊本でありたいし、若者が夢を持てる熊本でもありたい。可能であれば、世界にも熊本ありと知らしめるようなものが示せると良いと思っている。皆様お忙しいところ恐縮だが、よろしくお願いしたい。

(田中委員)

1つ提案であるが、まちづくりプラン「(仮称)」と付いていて、できれば何かコンセプトを体現するような、みんなで共有できるタイトルがあると良いかと思う。岸井先生、星野先生とは熊本駅でもやってきて、「パーク・ステーション」というイメージを共有したり、桜町・花畑でも「熊本城と庭つづきまちの大広間」等すごく良いコンセプトがあったと思うが、今回まちづくりプランとしてどのようなまちを目指すのか、それをしっかりと市民と共有して、こんなまちをつくるんだというコンセプトを、次回以降につくっていけると良いと思っている。簡単に決まるものではないとは思いますがそのようなものがあると良い。

(岸井委員長)

初回から様々ご意見頂き感謝する。事務局にお返しする。

閉会

(事務局)

本日、いただいたご意見等を踏まえ、次回の議論につながるよう、事務局において本日の議論を整理させていただく。

また、今回検討委員会にお示しした資料及び議論の内容については、市議会にお示しし、ご審議をいただく。

なお、本日の会議の資料及び議事要旨については、後日、市のホームページに掲載する予定。

以上をもって、第1回庁舎周辺まちづくりプラン（仮称）等検討委員会を終了する。